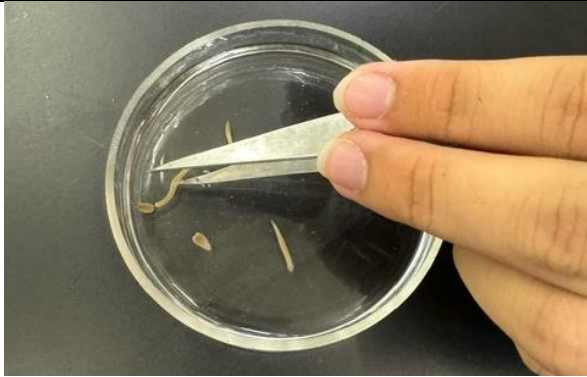





日々の田高

(放課後の生命たち -小さな世界は、まだ授業中- 「プラナリア実験」)

6月22日・23日の2日間、理数研究拠点校の放課後の生物プログラムとして、プラナリアの観察および実験を行いました。1日目には5名、2日目には15名が参加し、日々の授業では扱いきれない発展的な内容に主体的に取り組む姿が見られました。

プラナリアは扁形動物に属する生物であり、体の一部から個体全体を再生する高い再生能力をもつことで知られています。また、光や化学物質などの刺激に対する走性を示すことも特徴の一つです。そこで、本プログラムの1日目として、光に対する反応（負の走光性）を確認する観察を行い、切断実験を行いました。

	
プラナリア	6月23日 実験の様子
	
6月22日 実験の様子	6月23日 実験の様子

実習後、生徒からは、「光を当てた後は食欲が落ちているかもしれない」「5等分も出来てびっくり」など、実験に対する考察や驚きの声が聞かれました。上級生が下級生に対して観察方法や着眼点を説明する場面や、クラスの枠を越えて生徒同士が協力しながら試行錯誤する様子も見られ、本プログラムが学年を超えた学び合いの機会となっていることが確認されました。

来週には、本実験で切断したプラナリアの再生過程およびその結果を観察する予定です。本観察を通して、生徒が時間の経過に伴って変化する生命現象を継続的に追跡することにより、理解を一層深める機会となることが期待されます。